

第1回千葉県職業能力開発推進検討会 議事録

- 1 日時 令和4年8月30日(火) 10:00～12:00
- 2 場所 千葉県教育会館608室
- 3 出席委員(敬称略)

学識経験者	(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構 千葉職業能力開発短期大学校	校長 下町 弘和
	千葉県高等学校教育研究会進路指導部会	部会長 山本 昭博 (大網高等学校 校長)
事業主代表	千葉県職業能力開発協会	会長 赤星 健二
	千葉県中小企業団体中央会	副会長 熊谷 正喜
労働者代表	日本労働組合総連合会千葉県連合会	事務局長 中島 正敏
	全日本電機・電子・情報関連産業労働 組合連合会 電機連合千葉地方協議会	事務局長 野田 泰造
行政関係者	千葉労働局職業安定部	訓練室長 太田 克明

以上 出席委員7名

4 会議次第

- 1 あいさつ(野村商工労働部長)
- 2 委員紹介
- 3 会長選出、副会長指名(会長:下町委員、副会長:太田委員)
- 4 議題
 - (1) 本県における職業能力開発の現状と課題について
 - (2) 第11次千葉県職業能力開発計画の骨子案について
- 5 その他

5 議題に係る検討の概要

○ 事務局

(議題(1)資料1～6を説明)

○ 下町会長

事務局から説明のありました内容について、皆さんからご意見等がありますか。

○ 太田委員

高校生アンケートの結果を見ると、技専の認知度が低いことが課題だ。企業アンケートでは、技専のことを「少し知っている」まで含めれば、多くの企業が技専のことを認知している。とはいえ、企業が「修了者を採用したことがある」は、2割を切っている。企業側は、職務経験が少ないから採用しないのか、即戦力希望で躊躇してしまうのか、

企業側の意見を聞いていくことも必要と思う。

ハローワークでは、訓練修了者を1人でも多く就職させるという目標を立てて取り組んでいる。特に求人事業者の方々に対しては、訓練修了者は技能・知識を習得していることをPRしている。まずは、訓練を受講したいと思っている方や企業に対して、周知をしていくことは重要なことであるため、その方策について、検討していくことが必要と思う。

○ 赤星委員

説明いただいて、現状・過去について本当によく総括されていると感じた。

ただ、気になるのは、マクロに考えるとデジタルとアナログとものづくりに対する産業構造が大きく変化していること。職業能力開発協会でも、スタッフが減っても、過去に引きずられないで、なるべく新しい分野に取り組んでいる。

製造業・ものづくりは、日本の産業構造の中で、特に中小企業は縁の下の力持ちで、存在理由が明確にある。

非鉄金属は先端産業で存在理由が大いにある。例えばEV関連では、アメリカでホンダがLGと組んで、6,000億円以上投資すると言っている。エンジン付き車は作らないと言っている。そういうことのために、我々の設備を提供している。2025年以降の仕事について、困り込みをかけてくるくらい。ただし、それは日本ではない。結局、日本から電気をたくさん使う産業はほとんどなくなっている。そういう現実を見ていくことも必要だと思う。

ミクロの問題では、私どもは溶接をやっている。技術者は全国コンクールで入賞している。経済産業省は、女性と若者をコンクールで引っ張り上げようとしている。ところが、厚生労働省は、経験が15年ないと駄目みたいなことをやっている。経済産業省で1位になった男が、厚生労働省でエキスパートとして申請することは、現時点のルールではできない。技能というのは、長ければうまくいくというものでもない。

県立高等技術専門校から何人も生徒が入社している。成長して、千葉県の最年少の技能功労者になった者もいる。彼が県の表彰式に行った時に、彼はびっくりして帰ってきた。「僕みたいの若い人いませんでした」と。

これを県の吉田（特別秘書）さんや、滝川（副知事（当時））さんには申し上げた。経済産業省と厚生労働省にはミスマッチがある。

もう1つミクロでは、私どものところにハンディキャップのある方がおられた。この人は、普通の高等学校を卒業して、小児麻痺の障害があったが、優秀な経理マンだった。障害をお持ちの方でも人材育成をしていただくと飛ぶ鳥を落とすような勢いで、求人側もそういう人を求めていると思う。

職業訓練校についても、これまで何度か減らそうか、増やそうかという検討があった。必要なことは、マクロをよく見ること、過去に拘泥しないで考えることかと思う。

○ 下町会長

デジタル化の進展に対する対応や、基盤的な技術を残していくことが必要ではない

かということは、私も同感である。また、女性、若年者、技能労働者、技能を持たれた方々、障害者、高齢者の方々も含めて、どういう働き方や活躍する場があるのか、総合的に考えていく必要がある。

○ 野田委員

ものづくりの魅力発信について、高校生の関心や認知度が低いということだが、個人的な感覚でもそのようなイメージを持っている。学校の進路指導の先生や、保護者に届いていないのか、または、そこから末端に下りていないのか。実のところどうなっているのか。実際に現場でやられていて、進路指導の先生方とも連携をとっていると思うので、そこに大きな課題や改善方法があれば、教えていただきたい。

また、YouTube をやりたいという若者がいる中で、ものづくりに興味を持たれる方も少ないと思う。世の中に役立っているもの、成功すれば収入が多くなるなどの成功事例があると、目指したいと思ってもらえるのではないか。

○ 事務局

進路指導の先生には、技専の指導員や産業人材課の支援員が個別に訪問して周知をしているところである。

まず、認知度の不足、これは私どもとして大きな課題と認識をしている。これは今に始まった話ではなく、過去から同様の傾向を示していて、ここをどう対応していくのかというのが、今回の計画で一つの大事なポイントになってくると考えている。

先ほどお話のあったとおり、技専に入ってくれる方、雇っていただく企業側の方、それぞれのニーズを、どう体现化・具現化していくのか。

高等技専は10校体制でやってきた。行政改革や入校率の関係で、今は6校体制ということで、それはしばらく続いているところ。今回は前提として6校体制を維持しながらという中で、入校率は少しずつ減っており、ここで何が問題なのか、ハード面、施設の老朽化については、県全体の施設が老朽化していく中で、高等技専についても、今後は、これまで以上に力を入れていきたいと考えている。

ソフト面のところでは、プラント保全科と称していた臨海の企業向けのものを平成20年代初頭に創設されて以降、訓練科は変わっていない。基本的に機械加工、自動車など、ものづくり系を中心に訓練を実施して、先ほど課題のところにもあった、入校率が高いところは基本的に存続、低いところについて何ができるのかと。場所なのか訓練内容の問題なのか、現実的には手を加えてはこなかったが、そこを検討していきたい。入る側にも就職側にも響くように、ご意見を伺いながら、考えていきたい。

赤星委員から、マクロ・ミクロの話の中で我々の課題のとらえ方については適当だというご意見をいただいた。その中で、中小企業のものづくりや存在意義について、私どももそれを十分認識をさせていただいている。私ども人材供給機関としては、特に中小企業。大手に比べると、人材確保が非常に難しいと、中小企業元気戦略を作る中でも聞いている。

この計画の中にも、中小企業というキーワードを入れながら、その存在意義の大切さ

を訴えていきたいと考えている。

技能振興の話では、特に若手の技能振興についても、今までもやっている県の中の表彰、大臣表彰推薦において、国の制度で実務経験何年など定められていることは、現実ではあるが、県は制約があって、できるところとできない部分もある。それ以外に機運の醸成とか、技能検定を含めた制度の普及といったところで、若手労働者の確保ということで、どう貢献できるかという視点も持ちながら、考えていきたいと思っている。

○ 下町会長

課題等について、次の施策など含めて、ご説明いただいたので、次に議題（2）第1 1次千葉県職業能力開発計画骨子案について、ご説明をいただいた後に、またご質問をいただきたい。

○ 事務局

（資料7を説明）

○ 下町会長

第1 1次千葉県職業能力開発計画骨子案について、ご説明をいただいた。ここからは、議題1、2も含めて意見いただければと思う。

○ 熊谷委員

1つ目、物流科の設置の検討ということで、その内容について伺いたい。

2つ目、機能強化のところ、ポリテクの会議でも言ったと思うが、企業ともう少し連携、例えば、企業も受入れが大変だが、中学生や高校生に対して、工場見学や実習を実施することで、ものづくりを身近に感じるのではないかと考えている。

そういった実習の充実、先生やできれば保護者にも受けられる企業がどれだけあるかは問題があるが、企業側と行政と学校と連携してやれば、ものづくりの関心が高まるのではと感じている。

3つめは、若い人の早期離職の問題。3年以内に30%ぐらい離職してしまうという問題がある。離職者の情報を、学校、ハローワークと共有して、それをポリテクや技専にネットで紹介していくとか、逆に企業へ紹介していくとか、第2新卒みたいな若い人をどうやって就職、もう一度戻すとか、そういったことが非常に重要ではないかと思う。高齢者、女性、障害者の方ももちろんあるが、若い人が、せっかく就職したのに辞めてしまうことは非常にもったいない。ニートが60万人もいるとのことで、これだけでも相当の労働力になると思う。ここをもう少しがんばっていければ、企業も、そこに目を向けられると感じた。

○ 事務局

質問のあった物流科について、ポリテク君津において、産業機械オペレーター科を設置されており、そこでフォークリフト、玉掛け、建設機械等の訓練を実施しておられる。

そちらが非常に就職率も高く、人気もあるということで、ポリテク君津などを参考に訓練ニーズがどれくらいあるものかというのを検討している。県としては、ポリテクとの競争を避けてということになるので、そこを踏まえて、さらに検討を進めたいという状況である。

○ 熊谷委員

流山市や千葉市にも、大きな物流センターがあって、それに対する人材供給が不足している。今後、設備増強などもある。空港もそうだが、活性化しているところで、うまくマッチングできるといい。

○ 下町会長

物流科というと広すぎて、具体的にどういうものかというのがイメージできないかなと思う。物流科は普通課程で設置する予定か。

○ 事務局

短期課程で考えている。委員がおっしゃるように倉庫が進出して、フォークリフトなど、女性でも身につけられる技能があれば、そういった業界にすぐに人材供給していけるというところで、短期課程で考えている。

○ 下町会長

例えば、普通課程で若者へ魅力を伝えるというところでは、私どもの成田校の方に航空機整備科がある。何を目的に入校するかというと、飛行機に触りたい、空港に関係ある仕事をしたいという意思を持っている学生が非常に多い。そういう意味で成田空港というキーワードでいうと通関、グランドハンドリング、空港での荷物の出し入れ、ああいう仕事に憧れる方もいるかと思う。

であるので、訓練科の内容を幅広く考えるような方向性もある。物流は情報化時代になっている。倉庫も情報で制御する。そういうところに視点を置くとかいろいろな見方があるかと思うので、幅広く検討をしていただいて、その対象者にあった科の設置を検討していけばよくなると思う。

○ 赤星委員

各学校とその地域で協力関係をもう一度再構築されたらどうか。例えば、アルミニウム、チタン、ニッケル、そういうものは学校で素材を買うのも大変だが、当社には端材がいっぱいある。返却してもらえたらいくらでも使って構わないし、必要があれば、技術者を派遣することができる。

学校と企業が、会費を払ってもいいから、集まる会があったらやってみるのも結構ではないか。学校とその地域の企業が意識を共有していけるようになったらいい。学校の中だけで考えていると世間は見えない。我々も企業だけで見たら駄目。学校の卒業生なり、業界がどういうふうになっているのか、わかっているべきだと。それは、訓練校

だけでなく、工業高校でも同じ。出前授業をやってもいいと思う。

○ 下町会長

熊谷委員の方からも、企業との連携をというお話があり、赤星委員の方からも、企業と連携してしっかりと意見を聞いて反映させるべきではないかと意見があった。

○ 中島委員

介護、保育、建設の人手不足分野の人材確保ということで、訓練の充実に取り組んでいくという話であった。訓練の充実も大事だが、訓練が終わって働いてくれている方、そういった方々への支援策もセットにした方が、人手を確保するという意味ではよい。また、それがわかるようになっているといいと思う。

県として、できるかどうかわからないが、そういったことも考えていただければと思う。

○ 事務局

赤星委員と熊谷委員の、企業との交流、実習制度の充実、ごもつともなご意見で、各校各訓練科の特色、また歴史ある校もあって、地元就職する企業、人事担当者とうちの技専の指導員、そこでの交流は個々あるかと思う。企業実習も訓練科によっては、実施をしているところもある。

その上で、今いただいたご意見、また身近に感じてもらうとか、入校率の向上に、着実に近づけていくために非常に大事なことと思う。工業高校も含めて、教育委員会とも連携して、今以上に何ができるかというのは考えていきたい。

また、介護、保育関連の支援策セットについて、確かに私どもが作ると、断片的な情報に偏りがちになるので、そこを注意しながら、計画に書き込みたい。今の計画でも、県の健康福祉部サイドの事業など記載はしているが、目立つよう書き方を工夫しながら、よりパッケージセットで届くような形で、検討させていただきたい。

○ 山本委員

大網高校は、平成 20 年に白里高校と山武農業高校が統合し、それから約 15 年経つ。普通科のほか、農業科、食品科学科、生物工学科、大きなくくりで農業系の科を持っている。

お話を伺っていて、高等技術専門校の生徒募集等々のお話で、まさしく県立高校も同じような悩みを抱えている。本校も、今年度の入学者選抜で定員を満たしていない。

そういった中で、どう生徒募集しているかという、先生方や校長が中学校を訪問して、うちの生徒の状況や校の売りをお話させてもらっている。

そして、生徒については、地域との連携をいかにとるかということで、例えば小学校に出向いて、トウモロコシの種まきとか、中学校に行き、農業の話をするとか、近隣の小学校中学校に向けて、食育とか、そういった農業の持っている魅力を発信し、高校受験するときになったら、うちに来てほしいという取り組みをしている。しかし、いく

ら頑張っても限界はある。希望する生徒は定員に満たなくても、子供たちを一生懸命教育していくという視点でやっている。

あわせて、ハード面では老朽化した施設・設備がたくさんある。県内に農業関係の高校が14校あるが、予算の関係で年度ごとにきちんとは更新されてはいない。維持管理にも非常に苦慮している。

そのような中で、県内の農業関係高校14校で何しているかというのと、資料に県内14校の地図やQRコードを入れて、アクセスすれば、大網高校が見えるとか、あるいは農業関係高校全体で、ホテルポートプラザ千葉で朝市をやったり、今年からJR千葉駅で農産物の販売をやったりしている。

農業関係高校全体での取り組みも、各個別の高校での小中学校との連携もやっている。

であるから、課題ももちろん山積みと思うが、それよりは高等技術専門校の売りはどうなんだ、強みはどうなんだ、ということをもっと前面に押しでもいいと思う。

○ 下町会長

イメージアップのためにどう対処するかというのにも必要かと思う。

その中で、校名変更の検討ということが、骨子案の中に入っている。私どもの施設も、ポリテクセンター、ポリテクカレッジという愛称を30年近く前につけた。全国でこの名称を使っている。やっと、「ポリテク」が少しずつではあるが浸透はしてきたのかと思っている。

私どもは法律が変わると、校名が変わったりする。愛称を付けると、ずっと使えるということになる。先ほど、売りは何かというお話があったが、その売りをうまく説明・表現できるような名称を、例えば公募するとかでもいいと思う。ぜひ、イメージアップのため、ものづくりの魅力の発信の強化をご検討いただければと思う。

○ 野田委員

物流への私のイメージとしては、クロネコヤマトの物流システム、羽田クロノゲートを見学させてもらったが、ほとんど人がおらず、物だけ動いている。フォークリフトもほぼなく、マンションみたいな場所を物がどんどん流れている。

人が減ったのではないかと質問したら、速度が増したので、最後の積み入れは人になるので、逆に人手は増えているということで驚いた。どこから人を集めるのかと質問したら、アクアラインで千葉から人を集めると。ただし、外国人の方は、日本語を話せるようになるとすぐ辞めていくそう。

物流科というよりも大きな枠で、自動化とかロボットという部分の新たな科、物流だけでなく、コンビニの商品補充も自動化という流れになったりしているので、そういう方向もあればいい。

ロボット系や電機産業では、福岡の安川電機とか、そういうところにニーズをヒアリングしたりとかもいいと思う。

「誰もがいきいきと」というところで、コロナ禍で生活スタイルや働き方の環境が大

大きく変わったと思うので、現場に行かないと研修できない、体験できないというものもあると思うが、オンラインをうまく活用しながら、育児、介護、もしもの病気の時でも、研修やスキルアップが止まらない体制構築を並行して検討してもらえばいいのかなと思う。

「技能振興と継承」については、ちばテクのOBであったり、企業OBで退職したけどすごいスキルを持った方が、多分一杯いらっしゃると思う。それを産業人材課の方でプラットフォームみたいなものを作って、学校に派遣するとか、オンラインで教えてもらうとか、他県とかすごい技術者のOBがいらっしゃったら、そういう人の話を聞きたいというニーズがあるかわからないが、それらをつなぐプラットフォームみたいのがあるといいと思う。

あと、「魅力発信」のところで、企業では、リクルーターみたいなものを設けて、社員が自分の出身大学に出向いて行って、自社の良いところを説明したりという仕組みがある。生徒がやるべきことではないと思うが、やっていいという方がいれば、現場の声、現場を一番よくわかっているのだから、自分の出身高校に行って、学生の方に授業をしたり、体験を伝えてあげるというのも、何かいい刺激になるのかなと思う。

○ 下町会長

非常に貴重な意見ではないかと思う。ぜひ取り入れていただければと思う。

○ 太田委員

技専の強みということであれば、高い就職率ということだと思う。確実に就職率を100%にするという意気込みで、入校生が定員数を割ったとしても入校された方については確実に就職させるという取組は、これから新たに入校される方に対してのPRになる。

高校卒業後の進路相談をされる際に、就職希望の生徒を中心に技専という進路も当然出てくるのだろうが、技専に入校すると1年、2年と長期にわたって訓練することになる。就職すれば給与が支給されること考えれば、技専は進学という位置付けにもなるかと思う。大学、高等技術専門校、就職という選択肢の中で、どのように生徒に周知できるのか。もちろん大学に行くのも就職のためとも言えることから、目的をどこに据えて技専に入校するかということを明確に説明できれば良いと思う。

校名変更については、私どものハローワークという名称も、昔は公共職業安定所と呼んでいた。名前を変えれば入校者が増えるというものではないが、より認知度を上げ、身近に感じていただくためには、この時期に検討していただくのはとても大事なのかなと思う。

まず知っていただくためには企業との繋がりも当然大事だろうし、修了生が就職するのは企業になるわけだから、企業と一体となって、技専を盛り上げていくのは大事なことだと思う。

○ 中島委員

パンフレットにオープンキャンパスもやっているところがあるが、参加者は結構いるのか。

○ 事務局

一定の参加者がおり、オープンキャンパスに参加し、その後入校を申し込むケースは多い状況である。

○ 中島委員

知っていただくには、見に来てもらうのが重要だと思う。

○ 事務局

現場に来て、建物や設備、指導員を見ていただいた結果、入校する。そこが決め手だと思う。引き続き努力したい。

○ 下町会長

オープンキャンパスでも随時見学でも、見ていただくというのが大事である。私どもの施設でも、オンラインで、説明会、相談会を試行している。動画を見ていただくと、いろいろなことが伝わる。今の若い方々はスマホを見ているので、これは非常に有効な手段と思う。

今回の意見については、事務局で整理をしていただいて、次回までに反映をさせていただければと思う。

他にご意見がないようなので、本日は、これにて終了とさせていただきたい。